

## 中国研修を終えて

ソフトウェア情報学研究科 ソフトウェア情報学専攻

私は在学期間中、2018年（大学1年次）と2023年（大学院2年次）の2回、この中国語・中国文化コースの夏季海外研修に参加した。2回目となる今回の研修に参加した目的はいくつかあった。その中でも、「中国語だけを使う」と「北京・中国はどう変化したかを見る」の2つの目的について述べ、海外研修の振り返りを行いたい。

まず「中国語だけを使う」という目的について振り返る。私は2018年の研修に、中国語力がほとんどない状態で参加した（中国語検定準4級～4程度）。しかし幸運なことに、県大から一緒に参加した人の中に、中国語が母語の方が居たため、事務的な手続きで困る事が無かった。また現地で日本人の友達が出来て、楽しく過ごす事が出来た。初学者の状態で充実した研修を行えたのは、周りの日本語話者に助けられたという面がかなり大きく、その反面、中国語力の伸びを感じられなかったという反省点もあった。そこで、今回の研修では中国語だけを使うのを目的とし、他の言語に頼らないことを自分に課した。

今回の研修で一番大変で、一番中国語力が伸びたと感じたのは、現地での事務手続きである。学費、寮費、保険料などの支払いに関して、「いつまでに」「いくら」「どの建物のどの窓口で」「なんの書類を準備して」「どんな決済方法が使えるのか」といった必要な情報を得る事にとっても苦労した。これらを全て最初の4日ほどで行う必要があり、まだ耳が慣れていない状態だったので聞き取りに苦労した。重要っぽい単語を拾いながら雰囲気だけで会話をし、本当に合っているのかわからない不安な状態で様々な窓口を回る事になり、かなり苦労した。そのおかげで、必要そうな単語を拾う、とにかくこちらの主張を伝える、わからない事を聞く、といった生きていくために必要な中国語を改めて調べ直し、身に着ける事が出来た。それを乗り越えた自信から、残りの研修期間でも教室や街なかで中国語を使って生活することができた。

中国語のクラスは中級2班に配属された。伝媒大学の語言学院では中国語のレベルに応じて初級・中級・高級の各1・2班、計6班に振り分けられる。本来は事前にレベル分けテストが行われるのだが、テストは渡航前にすでに終わっていたので、私は中国語のレベルを自己申告し、中級2班（中級の上の方のクラス）に配属された。中級2班はHSK4級の実力を持つ人が5級合格を目指すクラスである。授業のレベルは私にとってはやや難しく、それがとても適していたと感じた。授業も質問も中国語で行うため、思考を停止する暇がなく、集中力MAXでとにかく食らいつき、休み時間はわからなかった単語を調べるなどをして過ごした。あまりに内容が多く、宿題も多い為、放課後を自習時間に充てる日も多かった。授業は聴解、読解、口語、文法と別れていたが、内容はHSK5級レベルで統一されている為、ある授業で習った表現が別の授業で出てきて、覚えたことをすぐに実践できる機会があり、

短期間で多くの語彙、表現を身につける事が出来た。

また、今回の研修で楽しかった思い出に、中国語で友達が出来た事がある。前回の研修では日本人と仲良くなれたが、今回は中国語である程度自分を表現できるレベルになっていた。非日本語話者の外国人と楽しく会話をすることができた。また、自分についてだけでなく、自国のことについて聞かれることも多く、日本の事を考え直すという経験が出来たのは自分にとっていい経験だった。

次に、「北京・中国はどう変化したかを見る」という目的について感じた事を振り返る。

第一印象として、外国人にますます不便な国になったという印象が残った。中国は現在、身分証明カード（マイナンバーカード）が無いとかなりの手続きが不便になるという状態である。地下鉄のチケットや、観光地の入場券を買う際、身分証明カードを入れないと発券されない。パスポートしかない外国人は有人窓口に行く必要があるが、有人窓口が無人の場合もあり、どこかにあるインターホンを探して係の人に来てもらう必要がある。また、ありとあらゆる決済や予約は、中国の銀行口座や中国の電話番号が無いかなりの不便を強いられる。QR決済に関しては外国のクレジットカードをAliPayに紐づけて、QRコードを使ってカード払いが出来ようになったが、タクシーの配車や、紫禁城のオンライン入場予約などはほぼ不可能である（紫禁城に関しては別途メールを出して予約する方法がある）。

不便になった以外では、治安がとても良いという点で変化したと感じられた。授業中に先生が「北京の治安はどうですか？」と問うた際、外国人の生徒が口を揃えて「とっても良いです」と答えていたのがとても印象的だった。私はこれまで「外国＝治安が悪い」と思い込んでいたが、よく考えてみると、日本より警察や警備員、軍による監視が多く、また監視カメラが街中にある北京の街に於いては、普通に生活や観光をしていて「治安が悪いな」と思う場面に遭遇することが無いのである。コロナ禍やオリンピックを経て、より監視が厳重になり、治安が良くなったという点で、2018年と変わったと思う。

また、伝媒大学にも変化があった。校門にはセキュリティーゲートが設けられ、顔認証を突破すると出入りできる。私は短期留学であった為、システムに顔の登録がされず、代わりに、（これも新しくできた）大学公式アプリのマイページからQRコードを出し、それを翳してゲートを出入りした。セキュリティーの強化で、構内が「閉じた」環境になったと思う。

留学生の国籍については、アフリカ系が増えたように感じられた。これは、昨今のアフリカで中国が存在感を増しているからであると考えられる。他にも、日本以外のG7の国から来る人は減り、BRICSの国から来る人が増えたと感じられた。私はいわゆる爆買いブームの2015～6年くらいから中国語を勉強し始めたが、そのころとは国際情勢がずいぶん変わった。自分の身の回りの事しかわからないが、中国語を取り巻く環境がおそらく世界レベルで変化していると思われる。「日本人が中国語を学び、それを活かせる場面」も少しずつ変化しているが、今回の研修を無駄にしないためにも学習を継続し、どんな場面であれ中国語を活用していきたいと思った。

## 中国研修個人レポート

ソフトウェア情報学部

### 1. 応募経緯

私は大学2年で中国語Ⅰ、Ⅱを履修し、大学3年で応用外国語として中国語履修した。2年間の講義を通して中国語を学ぶことの楽しさに気づき、中国語だけでなく中国文化への関心も高まった。そんな時、コロナウイルスが落ち着いたことで海外研修プログラムが復活したことを知り、実際に現地に行って中国語を学びたい、中国文化を現地で体感したい気持ちが高まったため応募を決意した。

### 2. 中華人民共和国北京市とは

中華人民共和国の首都であり、中国の政治・経済・文化の中心地となっている。また7つの世界遺産もあり観光客でにぎわっている街だった。都会な街並みと文化的な街並みが融合された北京市を観光するには2週間では全然足りないほど魅力いっぱいの地だった。日本に比べバイクや自転車を利用している人が多く、道端にはレンタルチャリがいたるところに見られた。バイクは車道ではなく歩道を走るため、初日は慣れず大変驚いた。

### 3. 中国伝媒大学とは

今回の研修では1年間（半年間）留学生として中国伝媒大学に入学した留学生達に混ざって講義を受けるような形だった。他の留学生も9月に入学したばかりだったため、既にコミュニティーが作られていたわけではなく、一緒に新学期を迎えて学び始める形だったのでとても混ざりやすい環境だった。大学敷地内の出入りにはアプリでQRコードを表示させた上で顔を認証し通過できる仕組みになっていた。

### 4. 2週間の生活について

二人部屋の寮で生活した。水は直接飲めないため、4Lの水を購入して500mlのペットボトルに移し替えて持ち歩いていた。移動は地下鉄を利用した。支払いは基本現金、一部Alipayで済ませていた。基本トイレにはトイレットペーパーが置いていないため、ティッシュを多めに常備するようにしていた。また出国前に空港でポケットWi-fiをレンタルしていたため不便なくスマートフォンを使用できた。スマートフォンの充電が切れてしまうと大学の出入りを行うためのQRコードを表示できないためモバイルバッテリーを持ち歩き常に充電に気にしながら生活していた。

### 5. 講義について

2コマ（1コマ50分）連続同じ科目で1週間に計20コマが割り振られた。また講義のない時間帯、土日は自由時間だった。私は中級1班に配属されたため講義は全て中国語だ

った。だが中国語力が全然未熟で初めは先生の話していること全く分からず、毎日クラスメートに英語で解説してもらって理解していた。徐々に先生の話す内容も理解できるようになるため、1日1日自分の成長を感じながら楽しく勉強できた。毎日課題も出るため放課後は早めに帰寮し、課題・予習をして過ごした。

#### 6. 食事について

朝・昼は売店にて3元（60円）ほどで売られている小籠包やソーセージ、こんにゃく串などを食べていた。夜ご飯は大学内にあるフードコートのような食堂で食べた。1食約17元（350円）でとても安かったが、寮は日本より多く毎日満腹だった。食堂も大学内に4つほどあり毎日飽きずに食事をとることができた。またタピオカも大変安くLサイズが10元（200円）と日本では考えられない値段だったため毎日のように飲んでいく。

#### 7. 観光について

私は北京市を訪れるのが今回初めてだったため、ガイドブックに載っている世界文化遺産を制覇することを目標にしていた。2週間では全て訪れることはできませんでした。「万里の長城」や「故宮博物院」、「天壇公園」など多くの歴史あふれる有名な世界文化遺産を訪れることができた。他にも「前門」や「王府井」、「南鑼鼓巷」など北京を代表する街にも足を運んだ。同じ北京市の街でもそれぞれ雰囲気が異なり、色々な北京を知ることができた。

#### 8. 自由時間について

私はよくクラスメート（ブラジル人2人、シエラレオネ人1人）の4人である時間が多かった。会話はほとんど英語だったため初めは相槌を打つことしかできなかったが、中国語と同様に徐々に慣れて最終日には楽しく会話ができる程度になっていた。他国の食事や文化、観光地などいろんな話を聞くことができ今思えば1分1秒が貴重な時間だった。日本のアニメやジブリをよく知っているようでたくさん話を振ってくれたが私のアニメやジブリに関する知識が浅はかだったため、上手く説明できず後悔が残っている。

#### 9. 2週間の研修を通して

中国語だけでなく英語力も向上でき、他国の人とGoogle翻訳ではなく自分の言葉で会話できるようになったことが一番の成長であったと感じている。中国人は少し冷たい印象があったが全然そんなことはなく、困っている様子を見かねて助けてくれる人もいれば、知っている日本語を使って会話しようとしてくれる人がいたりとても温かい人が多い国だった。不安いっぱいだった研修だったがかけがえのない大切な思い出となった。少しでも興味のある人は是非本研修に参加することをお勧めする。